

とから、第3学年で学んだ内容を第4学年「電流のはたらき」第5学年「電流が生み出す力」の導入で扱う等、理科で扱う内容の系統性を意識した学習展開の工夫を仕組んでいきたい。

- 理科の学習は観察や実験を通して内容の理解を図っていく。児童にとって魅力的な活動が多い分、楽しかった、面白かったで終わってしまう危険性がある。一つの単元や1時間の学習の中で行う実験や観察で、何を明らかにするのかという目的を児童がしっかりとつとめ、ふり返しにおいて学んだことは何かを確認することを通して、実験や観察が生きた学びになるようにしていきたい。
- また、児童が目の前的事象から問題を見出し表現することに課題があることから、授業で扱う内容を児童が自分事として捉えたり、見出される問題は何かを自ら考えたりできるような導入や展開の工夫を考えていきたい。

3 生活習慣・学習環境等に関する質問調査結果から見られる特徴

【児童質問の分析】

◆学校生活について

- 教員の支援や友達との関わりを通して、安心して学校生活を送ることができている。
- 自分とは違う立場を認めたり、安心して自分の意見を周りに伝えたりできる学級集団を築くことができている。
- 学校に行くことに楽しさを感じられなかったり、友達関係に満足していなかったりする児童も一定数いることから、そのような児童も含めた学級集団づくりを意識する必要がある。
- 昨年に引き続き、授業での ICT 機器の活用について課題が見られる。引き続き、校内研究を中心に取組の強化を行っていく必要がある。

◆生活面について

- 基本的な生活習慣が身に付いており、規範意識が高い。
- 自分に対して自信をもてていないことが課題である。学習の状況としても、学級集団としても自信をもってよい結果となっている。児童が日常生活の中で自分自身に対する自信を高められるような機会を捉え、適切な声かけや仲間同士の励ましを取り入れていくことが必要である。

◆学習に向かう意識について

- 教科への興味関心は教科によって異なるが、どの教科も将来役に立つという意識をもって取り組んでいる。
- 学習したことを次の学習につなげ、生活に活かそうとしている。
- 学習の状況とは異なり、勉強が得意と感じている児童の割合が低い。今後児童が授業の中で自身の学びの高まりに対し、自信をもてるような工夫をしていく必要がある。

◆地域との関わりについて

- 地域の大人が自分たちのために様々な場面で関わってくださっていることを、しっかり認識している。
- 地域の様々な大人との関わりを通して、児童の中にも地域や社会と関わろうとする意識が育まれている。

4 今後の学校経営の方向性

○基本的な生活習慣等の育成を図ります

- 引き続きあいさつ運動や無言清掃の推進などを通して、学習の基となる基本的な生活習慣の定着を図ります。
- 親子の会話が増えるような情報提供の充実を図ることで家庭との連携をさらに深め、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化を図ります。
- 地域との関わりについても、家庭・地域・学校との密なる連携を図りながら、子ども達の危険予知能力・危機回避能力の育成、ふるさとを愛する心の育成、地域に開かれた学校の創造をめざします。

○「思い遣る心」醸成し、より良い学級集団づくりを進めます

- 子ども達がより良く学ぶためには、自尊感情や自己肯定感を持ち、自他を尊重し他者と協働できる民主的で安定した学級集団が不可欠です。そのためには、いじめのない「思い遣る心」にあふれた「居場所」と「絆」のある学級づくりが必要です。
- 道徳教育や清掃や係活動といった人のために働く心を養う機会を通じて、子ども達の学校や学級のきまりを守る意識、互いに助け合う心を育てます。

○基礎・基本のより一層の定着を図ります

- 学力の向上を図るため、各学年の発達段階に応じた分かりやすく楽しい授業と個に応じた指導を行い、より一層の基礎・基本の定着を図ります。
- 家庭学習についても、宿題、自主学習ノート、eライブラリー、市販のドリル等、子ども達が自分のペースを大切にしながら、より意欲的に取り組めるような学び方について研究を深め、推進します。

○「やまなしスタンダード」を推進し、「甲府スタイル」を基にした授業改善を図ります

- 子ども達が自分の見方・考え方を「広め・深め・つなぐ」学びを進めるために、見通しと振り返り、動き出したくなる課題提示の更なる実践を通して、子ども達の思考力や判断力、表現力を育てる「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を行います。
- 子ども達の個別最適な学び、協働的な学びを支援できるよう、教科や単元の特性に応じた一人一台端末の効果的な活用に向けて研究を深めていきます。

○体と心の健康を図ります

- 運動が好きな子が増えることを願い、業前体育や体育集会など、楽しく体を動かす機会を充実します。
- 望ましい食習慣や生活習慣の定着をめざし、食教育の推進や、早寝・早起き・朝ご飯・トイレの大切さについての指導を継続します。

舞鶴小では、これらの取組を通して、これからの時代に生き抜く子ども達に求められる「自他を尊重し、協働しながら持続可能な社会の創り手となるための資質・能力」を育成します。これからも本校教育へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。